

別紙（事後評価書）

令和4年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	8	<p>事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業</p> <p>助成対象団体名： 公益財団法人静岡県舞台芸術センター</p> <p>施設名： 静岡県舞台芸術センター（SPAC）</p>
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>当該劇場・音楽堂等は、静岡県が平成30年3月に発表した「ふじのくに文化振興基本計画」において、3つの重点施策に位置付けられ、「静岡県舞台芸術センターの舞台芸術活動による世界的発信や鑑賞事業等活動」を推進している。</p> <p>ミッションは、「世界をリードする創造活動によって、日本文化の国際的プレゼンスを高める」ことを掲げ、ビジョンは、「日本の舞台芸術の国際的プレゼンス確立」の実現に向けて活動するとしている。</p> <p>アウトカムは、「創造」「文化交流」「教育」「地域活性化」の4つを掲げ明確である。しかし、7つの目標に対して、複数のアウトカムが紐づけられ、1つの目標の中に複数の目標を設定したものが3つ認められ、アウトカムと目標の整合性を複雑にしている。</p> <p>また、平成30年度に設定した20の指標は、令和2年度の自己点検報告書で、9つの指標に絞り込まれ、定性的な指標に集約していた。目標と指標の整合性にやや不明確な点もあり、事業計画の達成状況は判断できない。</p> <p>加えて、平成30年から令和3年度までの自己点検報告書では、目標及び成果をアウトプットとして捉えていることが判明している。</p> <p>以上のことから、事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定どおりに事業が進められたと判断できない。</p> <p>一方、創造作品の国内外での上演による高い評価、県内各地での公演やアウトリーチ活動等の実施による地域への貢献、中学高校生鑑賞事業等の鑑賞機会の提供が図られた。</p> <p>令和4年度については、練り上げられたレパートリー演目、地域の文化資源を継承していく公演、中高生の創造的感性を育む人材養成事業など、当該劇場・音楽堂等の強みを生かした事業が展開された。</p> <p>以上のことから、助成に値する文化的、社会的意義が継続して認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>妥当性で指摘したとおり、7つの目標に対して、複数のアウトカム及び9つの指標が設定され、事業間で目標達成を補完し合い複雑に絡み合っており、目標1から4及び7については、1つの目標の中に複数の目標が混在しているため、目標の達成度を測ることが困難であった。自己評価に関するエビデンス資料では、定性的な記述に裏付けされる資料に乏しく、明確な達成状況が測定できない。ただし、目標5と6はおおむね達成していたと認められる。</p> <p>以上のことから、目標が達成し、アウトカムの発現が可能であるか判断できない。</p> <p>なお、令和4年度については、全10事業のうち、2事業について目標が達成され、ほか5事業について目標の約85%が達成された。特に、レパートリー創造プログラム(2)国際共同制作事業及び、地域活性化プログラム(2)人材派遣型アウトリーチ事業について目標値に迫る結果となった。国際プレゼンスの獲得と県下全域に拡大する取組は、当該劇場・音楽堂等の存在意義をより一層高めた。</p>		

（効率性）

事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。

また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。

（創造性）

芸術総監督宮城聡が演出した『頭れ』と『イナバとナバホの白兎』では、十分に訓練された専属俳優の身体性並びに生演奏、芸術総監督の高度な俳優統率力・構成力、舞台美術の高度な製作技術など、劇場スタッフ・キャストの成熟度の高さが評価できる。芸術総監督の表現方法は、国内に類似なものはなく独創性、先導性が認められる。

『妖怪の国の与太郎』では、様々な妖怪を演じ分ける動き手（ムーバー）と、二人の語り手（スピーカー）を演じる専属俳優に独自の高度な演技手法が認められた。また、語り手は、演技と同時に秀逸な奏法で生演奏を行い、打楽器アンサンブルが作品全体を牽引していた。芸術総監督による特殊な演出手法は効果的で、独創性に優れていると認められる。また、俳優に違和感なくマスクを着用させることを意図した衣裳デザインや、上演途中で消毒タイムを取り入れる工夫など、コロナ禍に配慮したユニークな取組も奏功していた。

教育プログラムや地域活性化プログラムでは、舞台芸術人材や鑑賞者の育成、多様な地域活性化の取組など、市民の要望に寄り添った企画を提案した。講師やコーディネーターは、専属俳優やスタッフが務め、当該劇場・音楽堂等の強みを生かした取組として先導性が認められる。また、新型コロナウイルス感染症拡大に対応するため、「でんわde名作劇場」「オンライン・リーディングカフェ」「出張ラヂオ局」をオンライン配信で実施し、実演芸術の可能性を拡大する取組として、新規性が認められる。

芸術総監督はこれまでの活動が評価され、平成31年4月、フランス政府よりフランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章した。さらに、『パール・ギュントたち』は、ノルウェー政府の創設した革新的な舞台芸術プロジェクトを表彰する「イプセン・スカラシップ」を受賞した。芸術性が高い作品創造により、当該劇場・音楽堂等の世界的な評価が高まっていることが認められる。

令和3年度には、地域活性化プログラム「SPAGの劇配！～アートがウチにやってくる～」の事業のうち、「非オンラインによる高齢者や子どもに対する演劇配達」の取組が「第1回日本アートマネジメント学会賞」を受賞した。

令和4年度については、人材養成事業において、創作活動に関わった中高生たちは、演劇を通じて強い連帯感と創造性を育んだ。成果発表会では、身体表現の水準の高さや明瞭な発声など、十分にその成果が発揮された。レパトリー創造プログラム(1)作品創造①では、絶叫すると台詞が聞き取りにくくなる俳優が散見されたものの、スタッフ・キャストの高度な専門的技術が作品全体を支えており、音楽面も含めて舞台は緊密に創作されていた。また、同プログラム国際共同制作では、言葉の背景や筋立てなど、総体的なまとまりを欠いたものの、金に執着する主人公と欲望を満たすために嘘をつくことすらもいとわない登場人物たちに焦点をおくことで、現代にも通じる価値を内包させた演出は、極めて独創的であった。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながったと認められる。

別紙（事後評価書）

（持続性）

財政面では、静岡県との良好な関係を築き、潤沢な補助金の獲得や民間助成金の活用、専属俳優やスタッフによる講師料や上演料の収入増加など、財源確保の多様化を図っている。

組織面では、当該劇場・音楽堂等の芸術局職員のうち、芸術局長1名のみが常勤職員である。創作・技術部33名、制作部22名、文芸部3名、演技部45名は、3年ごとの更新による業務請負契約職員であり、安定的な雇用環境にあるとは言い難い。国内外で高い評価を受けている公立劇場として、安定した運営体制のもとで創作活動を実現することを求めたい。

以上のことから、組織面では制度的課題も多く、組織活動の持続的な発展については、一定程度の期待にとどまった。

令和4年度については、劇場と劇団の機能を併せ持つ当該劇場・音楽堂等の特徴を生かしつつ、自主事業におけるネットワーク構築に向けた連携先の拡大や県内外での派遣公演など、着実な事業展開が功を奏した。

（総 評）

平成19年4月に宮城が静岡県舞台芸術センターの芸術総監督に就任して以来、独自に開発した俳優訓練法により、「言/動分離」の手法と、専属俳優等による打楽器の生演奏を織り交ぜた精緻な演出は、国内外から大絶賛を浴び、我が国の国際プレゼンスの向上に貢献した。また、日本の古典戯曲から、ギリシャ悲劇をはじめとした海外戯曲まで幅広い演目を手掛け、活動の幅をより一層拡大していることが認められる。

今後、引き続き、我が国の国際プレゼンスを高めると共に、県立劇場として地元根ざした活動を継続し、県民に愛される公立劇場として地域に貢献することを期待する。

当該劇場・音楽堂等は、専属の演劇創造集団が世界水準の舞台を創作し続け、静岡県が掲げた「演劇の都」構想は、着実な歩みを見せており、その成果は全世界に波及しつつある。

一方当該劇場・音楽堂等は、特に遠方地域の活性化や県下基礎自治体とのネットワークなど、県域施設としての課題も垣間見られ、財産演目の巡回公演や人的資源を活用した取組がより一層求められている。今後も広大な静岡県の文化的土壌を豊かにし、世界水準の舞台を戦略的に発信していくことに期待したい。